



開府890年を記念して
千葉市が作成したマンガ「千葉常胤公ものがたり」

「房総」千葉介 常胤を生んだ地⑤

常胤さん日常③言葉と名前…その意味

「義経様お逃げください」と弁慶が言う……これはドラマの中でのお話。実際にこれをやると、最悪の場合、弁慶は一本刀あびる羽目になる。

鎌倉時代の第一級史料「吾妻鏡」の中に「頼朝の文字は無い。武衛・二位・二品・右大將家などであり、これらは主に文書上の呼び名で、日常的な呼び名は他にあってややこしい。佐殿とか鎌倉殿である。佐というのは官職名で今日の会社で言えば部長レベル。大河ドラマでは御家人たちがしきりに「すけどの」と呼んでいたが、あれは「ぶちよう」と呼んでいるわけで、御家人が「頼朝様」と呼ぶことは決してなかった。「鎌倉殿」は武家の棟梁となった頼朝と、それ以後の将軍に対する尊称である。

頼朝や義経、それにこの連載の主人公常胤という呼び名は諱と言いつ、目上の人から授かる名前である。したがって諱でその人物を呼べるのは親か目上の人だけということになり、主君に対して諱を使うことは極めて無礼なことでされた。



多賀護治 プロフィール

多賀歴史研究所代表・元玉川大学教育博物館研究員。フィールドワークを重視した歴史研究を続け、NHKをはじめとした歴史番組の時代考証、新聞への連載、講演会などの活動を行っている。玉川大学・学園に設置された「鎌倉時代の勉強をしよう」は鎌倉時代のWEB学習ページとして国内最大のもので、学校教育に限らず鎌倉時代に興味ある人にとって役立っている。著書に「知るほど楽しい鎌倉時代」（理工図書）などがある。

立場で呼称が変わる 封建時代

貴族や武士は成長や昇進、あるいは勲功によって名前が変わった。通常は鬼武者（頼朝）・牛若（義経）のような幼名からスタートする。それ以外に太郎・二郎・三郎のように出生の順を表す名（仮名）も用いられた。

通常、千葉介常胤さんの名は平朝臣千葉常胤ということになる。平は氏、朝臣は姓。千葉は領地の苗、常胤は諱である。苗と諱のあいだに仮名が入る場合が多いのだが、常胤さんの場合はこれが不明である。更に、

当時は形だけの朝臣と通称（苗）の千葉を除くと平常胤となり、これが常胤さんの正式な名である。これ以外に官位や官職名も使われたので「介」が入るとおなじみの名前になる。介とは律令制下の地方官で、序列は守の次である。現代風に言えば副知事ということになるが、鎌倉に武士政権が出来るまで下総では実質的なトップとなった。地方の豪族達が一族の結束を強めるため名家の血筋を求めたことや、権門勢家の庇護を受けるために領地を寄進したことは連載のはじめに書いたが、同様に国司の役人となり官位や官職を受けることも彼らにとつての重要事項だった。地方における縦の秩序関係を維持すること

や免税の特権があったからである。各地に残る「免田」という地名はその名残でもある。このように官吏を兼ねた地方豪族のことを在庁官人とか在庁と呼んだ。常胤さんもその一人である。

ちなみに上総国は親王任国といい、守は皇位継承権を持つ親王であったため介が実質的な最高位であり、この地の介は後世にブランド化する。忠臣蔵でおなじみの吉良上野介も上野国が親王任国であり、足利家という名家の血筋にふさわしいものだった。織田信長も上総介を名乗るが、こちらは自分で勝手に名乗っていただけで、いかにも形にこだわらない信長らしい話である。ちなみに親王任国は常陸国を加えての三國のみとなる。

話を戻そう。このように、封建時代では相手の立場やその時期によって呼び方が変わった。吾妻鏡の中でも同一人物の名が変わるのはそのためである。読む側としては面倒なことだが、どの時期の誰なのかは覚える以外にはない。こうした名前のつけ方は太政官布告で諱と字（日常使う呼び名）を併用することを禁止して明治3年まで続いた。

女性の場合は男性とは異なっていて、平安時代の頃から一定の身分を持つ女性は名前を秘匿するようになった。例えば清少納言や紫式部は父親の官職名であり、彼女らの実名はいまだに分らない。これは実名が霊的な力を持つ、軽々

に名乗ってはならないという思想的な風習による。誰でも知っている北条政子の政子は、従三位に叙された際に父時政の名前から一字をとってつけられた諱であり、それ以前の名前、つまり実名は不明である。常胤夫人の円寿院殿も本名は分からない。記録には秩父太郎重弘中女とあるだけである。実生活の中で二人はどうか？ 知りたいところである。

発音も単語も異なる 鎌倉人

話は続く。読者がタイムスリップして千葉の館前で「千葉介常胤様にお会いしたい」などと言えないことは既にお分かりただけだと思うが、実はその前に言葉が通じない。正確に伝えたいなら「ていんばのすくえとうねてやね」で、これでパツパリである。当時と現代では発音が異なるのだ。例えば鎌倉時代にはHの発音はない。Fである。つまり、上総介広常は「ふいろとうね」であり平家は「ふえいけ」であって、鼻は「ふあな」なのだ。現代フランス人がホンダとか日立を「オンダ」「イタチ」としか言えないのと同じである。他にも「ぎ・ぐ・げ・こ」は「ぐあ・ぐい・ぐう・ぐえ・ぐお」「たち・つ・て」とは「てや・てい・てゆ・てえ」とう・もしくは「てよ」「お」は「を」で発音していたことが分かっている。濁音は鼻濁音になるので「ば」は「ba」で発音された。これは頭蓋骨と口腔の形が発音に影響するからである。私たち現代日本人の頭は真上から見るとほぼ円形の短頭が多いが、鎌倉時代の人の頭

は現代の白人に多く見られる長頭が多く、我々とは容貌が少し異なっていたのである。

さて、最後は単語で締めくくろう。青春を謳歌するの「おうか」は「声を合わせて歌うこと」が語源である。しかし、中世では「風説」や「人の噂をする」事の意味として謳歌が使われていた。吾妻鏡文治5年（1189）12月23日の記に「疑發鎌倉之由有謳歌説」と書かれているのは、奥州で木曾義仲と源義経の子らが、藤原秀衡の息子と称する者と手を組んで鎌倉に攻めると言う噂がたつたからである。実際には奥州藤原氏の残党による反乱であった。平定まもない奥州では東国政権に対する不満や不安が渦巻いていたに違いない。そうした状況の中で勇将の子らが合力して鎌倉を攻めるといふ尾ひれがついても不思議ではない。

幕府はこの謳歌に敏感に反応し北陸道と東海道、当時時は常陸まで）を整備せよと御家人に命じた。この時東海道の大將軍は千葉介常胤であり、これが彼の人生における最後の大戰となった。齢71歳、冬の頃の話である。

千葉市

親の官職名であり、彼女らの実名はいまだに分らない。これは実名が霊的な力を持つ、軽々

千葉信用金庫
千葉市中央区中央2丁目4番1号
TEL: 043-225-1111(大代表)
http://www.shinkin.co.jp/chibaskb/